

さいたま市防災カルテ

片柳中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】見沼区の南部に位置し、緑区と隣接している。
 【土地利用】学区の南部に芝川が流れ、東部と南部に畑が広がっている。
 【交通】学区の中央部に県道214号、南西部に県道65号が走っている。

◆学区の位置



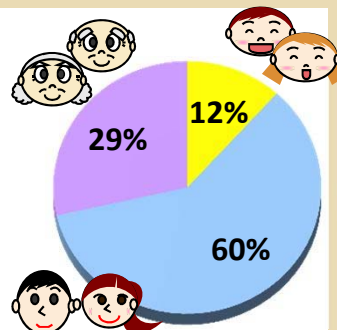
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.1)	6弱 (5.8)	6弱 (5.7)			
最小震度	6弱 (5.8)	6弱 (5.5)	5強 (5.2)			
死者	12人 (0.1%)	2人 (0.0%)	0人 (0.0%)			
負傷者	145人 (0.8%)	53人 (0.3%)	14人 (0.1%)			
避難者	919人 (5.4%)	256人 (1.5%)	53人 (0.3%)			
全壊建物棟数	313棟 (4.4%)	74棟 (1.0%)	3棟 (0.0%)			
うち焼失棟数	61棟 (0.9%)	36棟 (0.5%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	1,130棟 (15.9%)	454棟 (6.4%)	157棟 (2.2%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	53棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	0棟	0棟	0棟	265棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	片柳中学校区	全市平均
総人口	17,090人	
人口等		
0-14歳	1,990人 (12%)	(14%)
15-64歳	10,219人 (60%)	(67%)
65歳以上	4,881人 (29%)	(19%)
人口密度	2,435人/km ²	5,766人/km ²

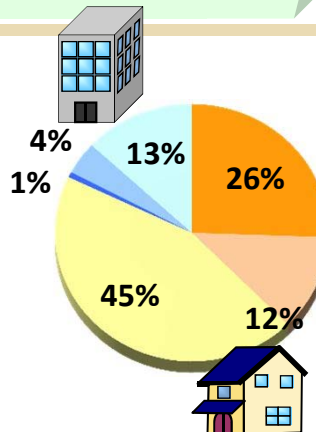


- 【地震】さいたま市直下地震では最大震度6強となっている。他の地域と比べ、相対的にはどの地震の場合でも**被害率は低い**。
- 【水害】他の地域と比べ、**相対的には浸水被害の危険性は低い**。

● 全市平均と比較すると、**65歳以上の高齢者層が多い**。

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	片柳中学校区	全市平均
総建物棟数	7,129棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	1,821棟 (26%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	860棟 (12%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,173棟 (45%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	49棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	292棟 (4%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	934棟 (13%)	(21%)



● 全市平均と比較すると、いわゆる**旧耐震基準の木造建物が比較的多い**。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	片柳中学校、片柳小学校、海老沼小学校、片柳公民館
一時・広域避難場所	日本大学、海老沼中央公園
市・区役所等窓口	片柳支所
消防署・出張所	
警察署・交番	片柳交番
救急病院	
応急給水場所	片柳中学校、海老沼小学校、東部配水場

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】古い木造建物が多い地区のため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【避難】高齢者層が多く、**地域で協力した避難行動・救助活動が必要**。

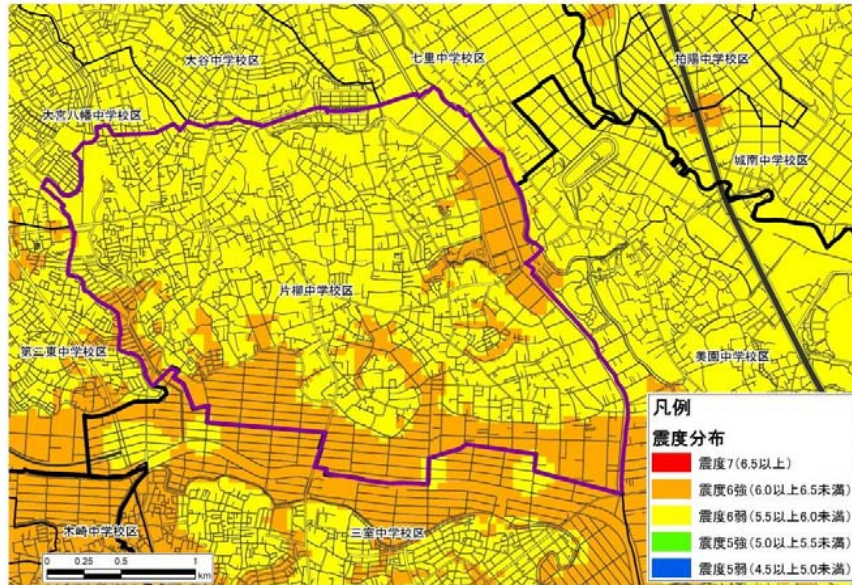
本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

見沼
MINUMA

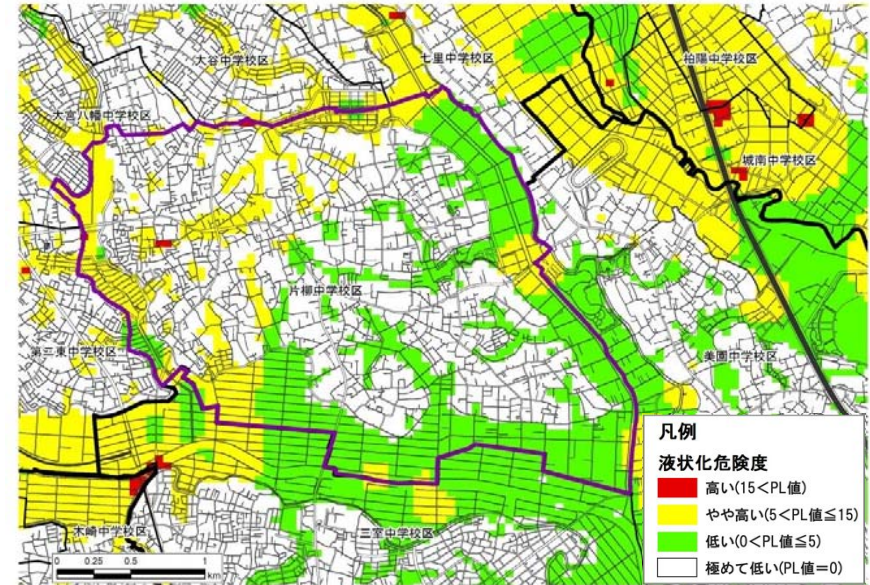
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

片柳中学校区

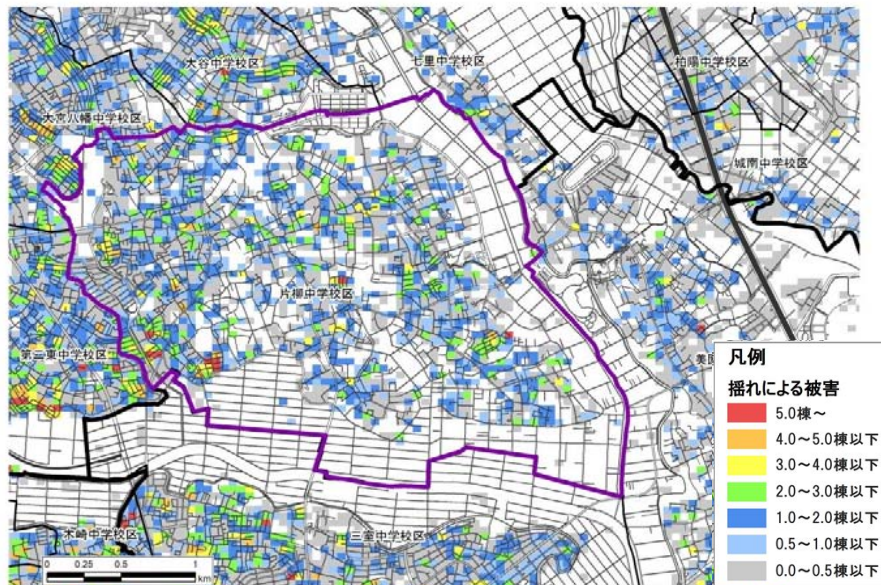
震度分布図



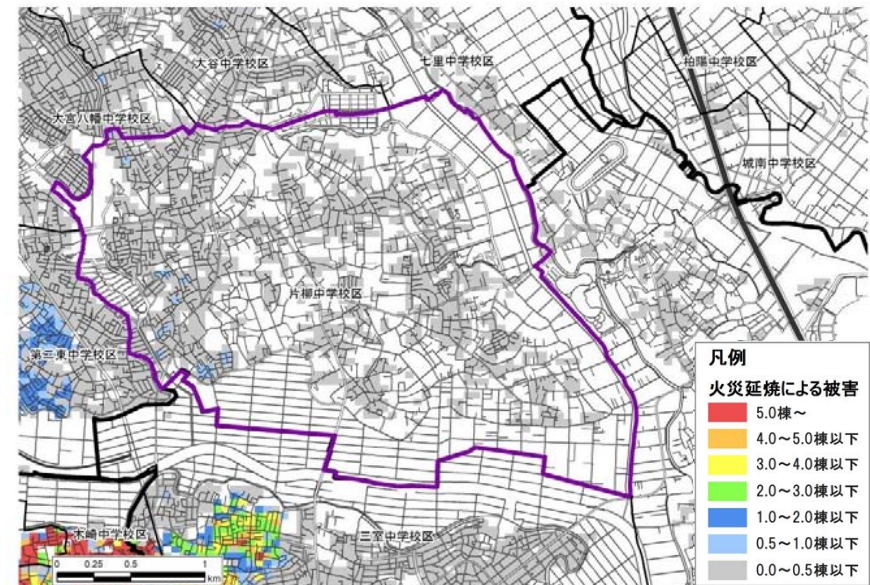
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

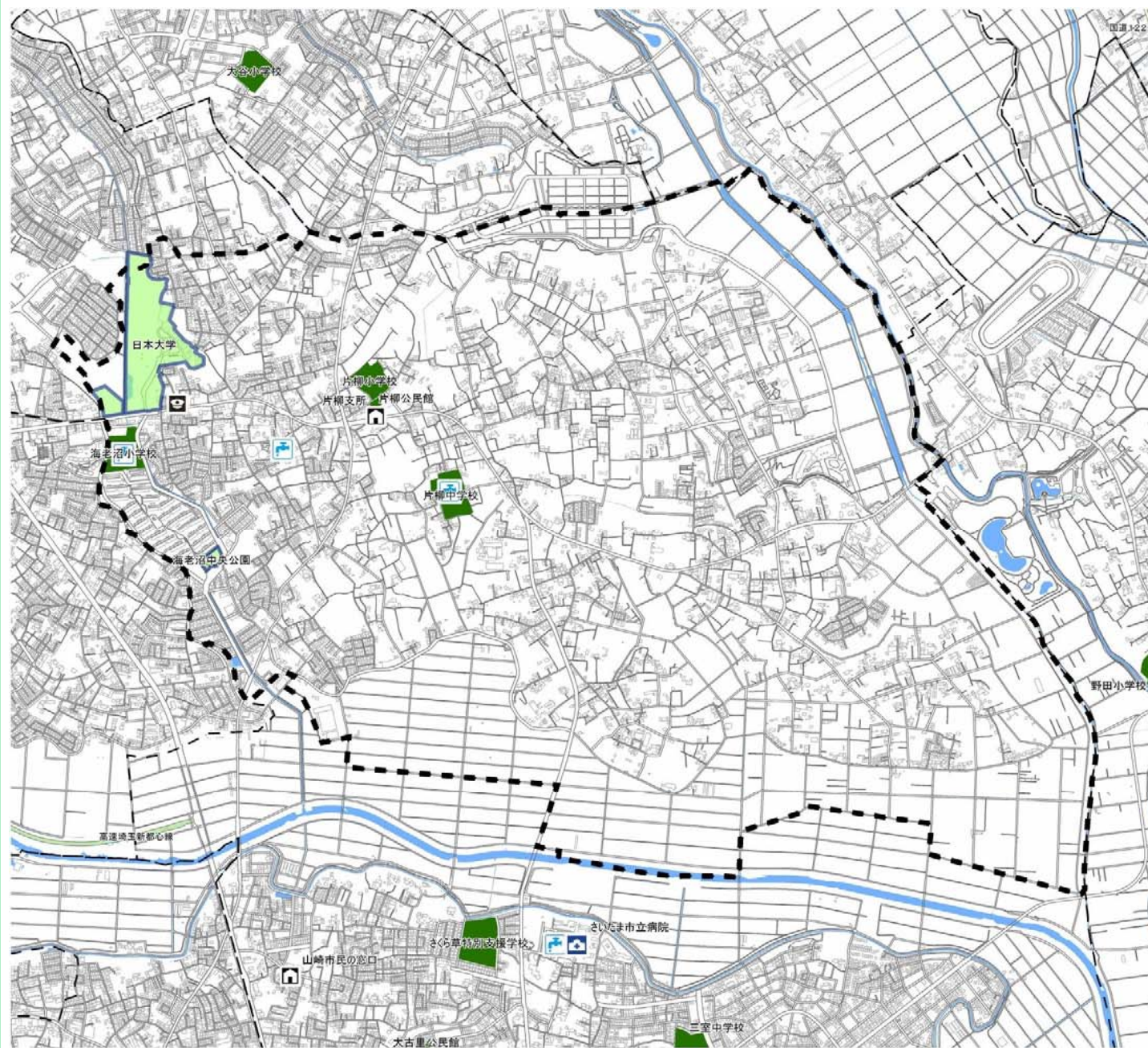


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話合ってみましょう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

片柳中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

